

大分市公共下水道事業の概要

歴史

- ・ 昭和 41 年 12 月に明野処理区を創設して、下水道事業に着手。供用開始した昭和 44 年当時の行政人口は 250,147 人で汚水処理人口は 4,190 人。
- ・ 以降、5 つの処理区に拡大して現在に至ります。
- ・ 雨水事業では、浸水対策として、雨水排水ポンプ場などを整備しています。

経過	出来ごと
S41	明野処理区を創設し、下水道事業に着手
S47	西大分処理区と植田処理区の創設
S48	明野処理区を統合して、東部処理区を創設 西大分処理区を統合して、中央処理区を創設
S53	大在処理区を創設
S61	南部処理区を創設

(汚水) 処理人口、普及率など

※平成 30 年 3 月末時点

① 行政人口	478,222人
② 処理人口(※1) (普及率 ②/①)	301,524人 (63.1%)
③ 水洗化人口(※2) (水洗化率 ③/②)	267,049人 (88.6%)

(※1) 処理人口とは、下水道を利用できる地域の人口

(※2) 水洗化人口とは、下水道に接続し利用している人口

下水道普及率は、全国平均 78.3% (平成 28 年度末) を下回っています。

現在、「大分市汚水処理施設整備構想」(平成 28 年 3 月策定) のアクションプランで目標設定した平成 37 年度末の普及率 73.3% を目指して整備を進めているところです。

施設の概要

■ (汚水) 施設

平成30年4月時点で水資源再生センター5箇所

処理区	施設名	供用開始年	処理方法	施設能力 ($\text{m}^3/\text{日}$)	1日最大 流入水量 (m^3) (H29年度値)	1日平均 流入水量 (m^3) (H29年度値)	備考
中央	弁天水資源再生センター	S52	標準活性汚泥法	57,468	49,430	38,825	
植田	宮崎水資源再生センター	S48 H3	標準活性汚泥法	45,120	27,660	24,252	S48:第1プラント H3:第2プラント
東部	原川水資源再生センター	S44 S60	酸素活性汚泥法	46,964	44,690	33,154	S44:第1プラント S60:第2プラント
大在	大在水資源再生センター	H2	標準活性汚泥法	15,258	14,701	11,056	
南部	松岡水資源再生センター	H4	標準活性汚泥法	13,938	7,100	6,357	
計				178,748	—	113,644	

■ (雨水) 施設

平成30年4月時点で12箇所

排水先	施設名	供用開始年	排水能力
大分川	弁天 雨水排水ポンプ場	S54	7.6 $\text{m}^3/\text{秒}$
	津留 雨水排水ポンプ場	H11	17.0 $\text{m}^3/\text{秒}$
	光吉地区 災害対策ポンプ	H18	1.0 $\text{m}^3/\text{秒}$
	元町 雨水排水ポンプ場	H19	19.7 $\text{m}^3/\text{秒}$
	片島地区 災害対策ポンプ	H19、H26	1.0 $\text{m}^3/\text{秒} \times 2$
	花園地区 災害対策ポンプ	H21	2.0 $\text{m}^3/\text{秒}$
大野川	関門 雨水排水ポンプ場	H17	7.6 $\text{m}^3/\text{秒}$
立小野川(大野川)	光永地区 災害対策ポンプ	S60	1.5 $\text{m}^3/\text{秒}$
乙津川	堂園 雨水排水ポンプ場	H17	9.0 $\text{m}^3/\text{秒}$
	若宮地区 災害対策ポンプ	H18、H26	1.0 $\text{m}^3/\text{秒} \times 2$
	皆春 雨水排水ポンプ場	H24	26.1 $\text{m}^3/\text{秒}$
萩原都市下水路	萩原地区 災害対策ポンプ	H19	1.0 $\text{m}^3/\text{秒}$

今後は、片島雨水排水ポンプ場（排水能力 17 $\text{m}^3/\text{秒}$ ）を H34（2022）の供用開始に向けて整備していきます。



◇ 大分市公共下水道事業の計画体系

